

「悪魔からの誘惑 2」

2015年05月07日

ルカによる福音書 4章5節～13節。更に、悪魔はイエスを高く引き上げ、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せた。そして悪魔は言った。「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。それはわたしに任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」イエスはお答えになった。「『あなたの神である主を拝み、／ただ主に仕えよ』／と書いてある。」そこで、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。というのは、こう書いてあるからだ。『神はあなたのために天使たちに命じて、／あなたをしっかりと守らせる。』また、／『あなたの足が石に打ち当たることのないように、／天使たちは手であなたを支える。』」イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』と言われていた」とお答えになった。悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。

主イエスは神の国の宣教を始められる前、悪魔から誘惑を受けられた。二つ目の誘惑は「権力と繁栄」に関するものである。悪魔は主イエスを高い山に連れて行き、地上の栄耀栄華を見させた。そして、ここから見える一切の権力と繁栄は私に任されていて、望む人に与えることができる。お前が私を拝むなら、これら全てを与えようと誘惑した。聖書では地上の権力、繁栄は悪魔にひれ伏すことによって与えられると捉えている。主イエスは「『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある」と答えられた。この言葉は申命記6章13節「あなたの神、主を畏れ、主にのみ仕え、その御名によって誓いなさい」からの引用である。地上の全ては悪魔に踊らされているのではなく、神が支配している。主イエスは神を拝み、神のみに仕える信仰をもって、即ち神に愛された人間の尊厳を表された。悪魔は真逆に人間を否定する形で活動する。

「権力は堕落する」と言われる。悪魔にひれ伏した権力の下では人間は生きる権利も自由も奪われ、奴隷化する。だから、権力の横暴を監視し、チェックすることが国民の責任、義務である。安倍政権は戦争できる国になろうと、教育、ジャーナリズムなど、全てに渡って支配下に置こうとしている。何でもできるかのような傲慢な言葉を発し、横暴が目にあまる。諸外国からも右傾化が懸念されている。命と平和が守られるように、世界の孤児にならないように、国民は声を上げていかなければならない。主イエスが受けた第二の誘惑は現実的で、示唆に富んだものである。

第三は、主イエスをエルサレム神殿の高い屋根の上に立たせ、飛び降りて見よ、神の言葉である詩編91編に、屋根から飛び降りても地面にたたきつけられる前に天使が支えてくださると書いてあるではないかという誘惑である。主イエスは「あなたの神である主を試してはならない」と答えられた。これは申命記6章16節「あなたたちがマサにいたときにしたように、あなたたちの神、主を試してはならない」からの引用である。出エジプトしたイスラエルの民は水に渇き、神はおられるのかと言って神を試みた。しかし、神は厳然とおられ、彼らを守られた。人は苦難の時、アツと驚くような奇跡を求める。奇跡はなくとも、神は必ず守ってくださる。主イエスはご自分のためには一切の奇跡を求めておられない。神は共にいて守ってくださると信じたからである。悪魔は諸々の誘惑を終え、立ち去った。そして、主イエスの表す福音の時（カイロス）が来た。